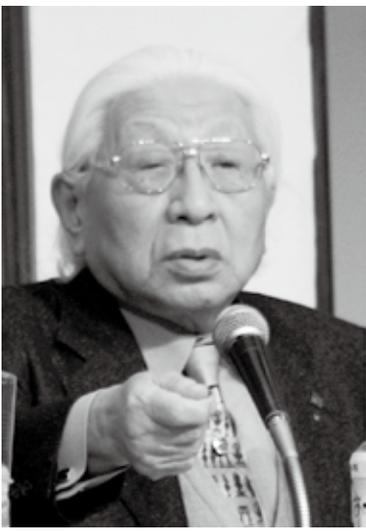


西条市・サイクス主催

地域経済活性化シンポジウム

開催報告



堀場雅夫氏プロフィール

1924年京都市生まれ。1945年、京都大学理学部在学中に堀場無線研究所を創業。学生ベンチャーの草分けと呼ばれる。1953年に堀場製作所設立。1978年に会長、2005年から最高顧問に就任。

日本新事業支援機関協議会（JANBO）会長、京都商工会議所副会長などを歴任し、起業家の育成にも力を注いでいる。

去る3月24日(火)、日本のベンチャー企業の草分け的存在といわれる(株)堀場製作所最高顧問の堀場雅夫氏をお招きし、地域経済活性化シンポジウムを開催しました。経済不況の影響によって暗い話題が多い昨今ですが、このような状況だからこそ、多くの苦境を乗り越えた経験を有する大先輩の考え方に学ぶことが多いと考え、シンポジウム開催へと至りました。

当日の講演と座談会の概要を市民の皆さまへご報告いたします。

講演

講師 堀場雅夫氏（(株)堀場製作所 最高顧問）

演題 クオリア時代

●日本のパワーは地方から

人がフルパワーを出せる状態は、精神的にも肉体的にも万全な状態である。日本も同じで、地方が元気でなくては日本がフルパワーを出すことは不可能である。地方が活力を持つため、地場産業を育成することが重要である。

●クオリアとは

「質感と訳されるが、私は「グッとくる」ことと言って、積極的にクオリアを感じ、考えることで何かを生み出す。「五感」を研ぎ澄まし、多くのクオリアを感じることで、楽しい人生、新しい自分に出会うことができる。

●仕事は楽しく

多くの人は「仕事イコール疲れ」と感じるだろう。社会のため、自分のため、人生を楽しむために仕事をすると考えれば、仕事から得られるクオリアは想像以上に多くなる。

●未来は自分で創る

将来、日本や西条市がどうなっているかは誰も予想できない。しかし、市民が西条市をどのような都市にしたいか目標を持つことで、素晴らしい西条市を創り上げることが可能である。

車座座談会

登壇者

堀場雅夫氏

徳増有治氏（四国経済産業局長）

丹治芳樹氏（日本銀行松山支店長）

谷口裕久氏（(株)谷口金属熱処理工業所代表取締役）

伊藤宏太郎（西条市長）

テーマ 郷土に対する想いと外への発信



市長 ここ10年、地方から日本を元気にしようと、内発型の産業育成に力を入れてきた。今後は、新居浜市、四国中央市とともに三極連携を行い、自立した地域経済の確立をめざしている。目標を持つ地域が連携して進んでいくことが大切である。

谷口 本社を西条市に移転して2年が過ぎた。西条市にきたことで、様々な企業と結びつきができた。西条市は資源も人も豊かなクオリアのある地域である。今後も他社が行わないことを進んで行い、地方企業でも存在感を示していきたい。

徳増 四国は高い潜在力を持っている。地域に存在する資源を最大限活かすことで、地方から提案が可能となる。

一人ひとりが毎日の仕事でクオリアを感じ目標を持つことができれば、四国から日本を変えることは可能だろう。

丹治 地場産業が多い愛媛県は、クオリアを大切にしている地域である。地方都市圏の中でも特許件数が非常に多い。将来へ向けてしっかりクオリア

中小企業は新しい発想と見方で市場ニーズを見付け出し、そのニーズを満たすために自社の技術をどう活かし、発信していくか考える必要がある。

堀場 多くの企業が経済不況で苦しんでいるが、為替相場が1ドル2円になるのが500円になるのが、人は生きていける。クオリアを感じ目標を持つことで、状況を打破する力を持つことができる。